

お世話になっている目

ここ 10 数年前から、お世話になっている目の病気で悩まされてきた。まずは白内障の両眼の手術だ。これは日帰り手術ですんだ。

次は、黄斑上膜と黄斑円孔の入院・手術。とりわけ黄斑円孔の 10 日にわたる名古屋市立大病院での入院は忘れられない。手術のあと、うつむき姿勢を続けなくてはならず、穴の空いたベッドで眠りを強いられた。腰痛の身には、とにかく腰と首が痛かった。水もうつむき姿勢でストローで飲んだ。勝手に「イエローライン」と名づけた廊下の線に沿って、朝早く何周もうつむきで歩いたものだ。退院直後に予定されていた講演に備えるためだ。



お世話になっている目をテーマに、レポートに書きたくなかったのは、再び目の調子が悪くなったことによる。5 月 11 日に大阪湾の人工島・夢洲に「初上陸」して、急に目が充血して、眼科に行った。目の充血は薬で直ったが、その時の検査で緑内障の恐れを指摘された。初めてのことで、なんだかショックだった。お世話になっている大切な目なので、気長に治療しようと通院している。

眼科でもらった冊子によると「緑内障は、何らかの原因で視神経が障害され視野（見える範囲）が狭くなる病気で、眼圧の上昇がその病因の一つとされています」とある。これまで眼圧の検査を何回も受けてきたが、緑内障という診断はなかった。どうして？冊子にこう書かれていた。「眼圧が正常範囲(10~21mmHg)にも関わらず緑内障になる人がいます。これを正常眼圧緑内障とよび、開放隅角緑内障に分類されます。近年行われた調査の結果から、緑内障の約 7 割が正常眼圧緑内障であり、また日本人に多いことがわかりました」。

またもや大切な目の病気を宣告されたが、早期発見でよかった。これも夢洲「初上陸」のおかげだと思う。私にとって、夢洲は「目の島」である。再び目薬との「つきあい」が始まった。

ここで、入院時代から続けている「点眼チェック」を紹介したい。術後には、何種類かの目薬を定期的に差さねばならない。点眼したかどうか、つい忘れがちになる。それで「点眼チェックシート」なるものを考えた。

術後には本も読めず、こんなことを考えるしかない。当時、病院で患者も含め「参加型治療」を推進していたので、看護師さんに褒められた。何種類の日薬と日時をクロス表にして、点眼のあと確認のチェックを入れる。これで点眼忘れを防ぐことができる。目薬だけでなく、ほかの薬でもチェックシートを活用している。

(2019 年 6 月 16 日)